

ベーシック・インカムが若者の職業選択に与える影響

1220538 原沙英

指導教員 中川善典

研究背景

ベーシック・インカムとは、新たな社会保障制度のことで、政府が全国民に対して最低限度の生活を送るために必要な額の現金を定期的に支給する政策のことである。日本においては導入事例はないが、海外の特にヨーロッパにおいては多くの実証実験や導入事例がある。

現在、「AI時代」や「コロナウイルス」の影響により既存の社会保障制度の崩壊が危惧されている。こうした背景があり、既存の社会保障制度に代わる新たな社会保障制度としてベーシック・インカムが注目されている。

研究目的

ベーシック・インカムが導入されるにあたって課題の1つに労働意欲の低下による生産性の低下がある。この課題をもとにベーシック・インカムの導入は若者の職業選択にどのような影響を与えるのかというテーマについて研究した。このテーマの研究を進めるために2つのクエスチョンを設定した。Q1ベーシック・インカムはどのような若者の職業選択にどのような影響を与えるのか？Q2ベーシック・インカムはどのような若者の職業選択には影響を与えないのか？Q1、Q2をもとに若者の職業選択に与える影響を研究する。

調査・分析方法

すでに内定先が決まっている大学生に対して個人アンケートを行った。アンケート結果をもとに就職活動において迷った経験とベーシック・インカムによって支給されるお金の位置づけについて分析・分類し、これらの関係を調べた。

分析結果

就職活動における迷いとベーシック・インカムの位置づけの関係を調べた結果、Q1については公務員やスポーツ選手を目指す人や、自分がやりたいことが見つからない若者に対して夢を実現するための生活資金として職業選択に影響を与えることが分かった。また、Q2については、ベーシック・インカムによって支給されるお金について、支給される分を使って生活を豊かにするや精神面で安定する、そもそも意味を感じないと位置づける若者には、職業選択に影響を与えないことが分かった。

考察・結論

本研究を通してベーシック・インカムの導入は、金銭面などを理由に職業選択に迷う若者に対して、夢を実現するための生活資金を提供するという新たなベーシック・インカムの側面を発見することができた。また、個人アンケートにおいてベーシック・インカムが導入された場合、仕事をやめて働かないという回答をする学生は0人であった。その結果から学生から社会人になる1つの区切りに直面している若者は、生活のための労働ではなく、夢の実現や充実感、生活水準が上がることを仕事に求めていることが分かった。

既存のベーシック・インカムの論文多くは、生活保護制度との比較や、貧困層に対する制度設計について考察されているものがある。しかし、今後は若者の職業選択をはじめとした今まで議論されていなかったところにも議論を広げていくことが導入するにあたっては重要になってくるのではないかと考える。